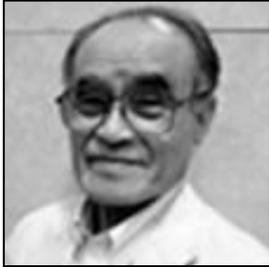


平成 27 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



松本 栄二 (まつもと えいじ)

社会福祉法人麦の家

1931 年 6 月 8 日生まれ

【授賞理由】

人は最期の時を迎えるまで自立して生きることができるのかという単純で深遠な問題から出発したケア，さらに 1 人ひとりの人生そのものに寄り添おうとする認知症ケアはまさに途方もない挑戦といえます。その活動主体として当時はまだ前衛であったグループホームを選択し，認知症の人たちと苦楽を共にした貴殿の活動は，自宅に勝るとも劣らない終の棲家の形を世に知らしめました。

【略歴】

- | | |
|-----------------------|--|
| 1959 年 6 月 | Canada British Columbia 大学大学院 (UBC) 卒業 |
| 1965 年 4 月～1998 年 3 月 | 上智大学文学部社会学科社会事業専攻教員 |
| 1970 年 4 月～2010 年 3 月 | 東京カトリック大司教区立財団法人東京カリタスの家 |
| 1998 年 4 月～2001 年 3 月 | 帝京平成大学情報学部福祉情報学科教授 |
| 1998 年 8 月～ | 社会福祉法人認知症高齢者向け単独型グループホーム麦の家 |
| 1999 年 4 月 | 上智大学名誉教授 |
| 2001 年 4 月～2005 年 3 月 | 文京女子大学人間学部人間学科教授 |

【業績および活動内容】

老い行く人間にとって患う認知症を受け入れ，希望をもって共に生き生きと生活し続けてゆくことのできる地域を目指す。認知症ケア実践の場が上記目的を實踐してゆくためには，単独型グループホーム (GH) が最も有効なサービス提供を可能とすることを実証してゆくことを目指している。

1998 年定員 5 名の GH を無認可組織として始めた。1999 年単独型 GH として当時宮下創平厚生労働大臣より日本における第 1 号として社会福祉法人の認可を受け，2009 年先駆的空中事業として国の補助金により福祉型ホスピス (定員 6 名) を開設し現在に至る。

活動の特徴として，①GH 入居の申請，契約，利用開始期のケアこそが認知症にとって最重要の期間と考えている，②家族 (の人々) は最低，週 1 回の来訪を契約条件の一つとしている，③継続ボランティアとの共同作業によるケアを実施している，④死の看取り及び葬儀への参加 (弔辞) を認知症ケアのひとつとして重視している，ことが挙げられる。

その結果，麦の家を利用したこと，また利用することが村の人々にとって「良かった」と言われるようになった。また，死を看取った家族の人々，特に「孫達」へ，生きることは死をも

含めていることへの理解を深める機会となっている。

今後、GH の役割は在宅介護の補完サービスであることを目指し、死の看取りが在宅で行われるようにその支援及び、地域への働きかけの活動を開発してゆくことを目指す。